事業計画書（公表用）

１　管理上の総合的な方針

（１）施設の現状認識

美術館の役割は、「県民の財産である所蔵品を守る場であり、県民に優れた文化芸術を届け、学びと地域交流を生み出す場である」ことを認識したうえで、やまぐち文化芸術振興プランの計画及び山口県の施策に沿って県立美術館の指定管理業務を担います。
山口県では人口減少や少子高齢化、若者の県外流出などが課題となっており、子ども向け文化芸術体験の充実や若手アーティスト支援を通じて、地域への愛着と定着意識の向上を図ります。また、子育て支援策として、親子向け事業や来館環境整備を進めます。
観光振興・交流人口拡大による地域の活性化も求められており、アフターデスティネーションキャンペーンを好機と捉え、展覧会情報発信、多言語対応、観光関係者との連携を強化し、県外からの観光客を呼び込みます。これに合わせ、地域活性化の核として、地域イベント（ちょうちんまつり、萩焼まつり等）に積極的に参画し、教育・文化・観光・地域コミュニティを結び付ける場の役割を果たします。
DXの推進では、キャッシュレス決済、オンライン受付、日時予約システムの利便性をさらに高めて、利用者サービスの向上を図ります。
このように、美術館を展示の場だけでなく「交流・学び・共創の拠点」として、文化芸術を活用して、若者定着・子育て支援・観光振興・地域活性化・デジタル化という山口県の主要政策課題の解決に貢献し、美術館の利用価値を高めることで、県立美術館２館を文化・観光・地域共創の拠点としてさらに発展させていきます。

（２）管理運営を行う上での総合的な基本方針

基本方針

県と地域と連携し、文化芸術を通じて地域課題の解決と県民の豊かな暮らしの実現に貢献します

「やまぐち文化芸術振興プラン」にある県立美術館２館の年間入館者目標数20万人以上を達成するため、上記基本方針を掲げ、以下の行動指針により活動を推進します。

行動指針１

県民と文化芸術をつなぐ拠点として、県と地域と協働し学びと交流の輪を広げます

子どもから大人まで楽しめる体験型事業を充実し、子育て施策や地域観光との連携を通じて家族来館を促進するとともに、文化芸術の普及と美術館の魅力向上を図ります。

行動指針２

地域文化資源の魅力を発信し、交流人口を増加させて豊かな地域づくりに貢献します

デジタル活用による来館者利便性の向上と情報発信の強化を進め、SNS発信力を高めるとともに、文化観光コンシェルジュの育成により、来館者サービス、文化芸術の普及、地域活性化を推進します。

行動指針３

文化資産を未来へ継承するため、持続可能な管理運営を実現します

作品保全と安全な鑑賞環境を維持するため、施設の老朽化に対応した長期修繕計画を県に提案し、災害対策の強化を図ります。

2　利用者サービス向上についての方針及び実施計画

（1）実施方針

実施方針

美術館が核となり、教育・観光・産業と連動した企画により
地域と一体となった文化コミュニティを創出・展開

● 美術館の魅力を多元的に発信し、県民と文化芸術をつなぐ拠点を目指します

・教育・観光・産業と連動した企画により地域と一体となった文化コミュニティを創出・展開し、美術館を地域の文化創造拠点として、役割の強化と価値向上を図ります。
・県推進のまちなか交流事業と連携し、2館それぞれの特徴を活かした事業を実施します。

● 地域との連携を強化し、文化観光による交流の促進を図ります

・美術館が核となり、来訪者の回遊性向上と滞在時間の延伸を図ることで交流人口を拡大し、観光消費の拡大を通じた 地域経済への波及効果の創出に取り組みます。
・特に山口県立美術館（以下「県美」）では「山口七夕ちょうちんまつり」、「日本のクリスマスは山口から」、萩美術館・浦上記念館（以下「萩美」）では「萩焼まつり」、「萩・竹灯路物語」等に引き続き参画し、美術館と地域とが一体になって賑わいを創出します。

● 美術館の文化資産を未来につなげ、持続可能な運営を展開します

・美術館の収蔵品・施設・人的ネットワーク・地域人材を「文化資産」と捉え、その活用によって新たな価値を創出します。
・館内スペースを活用した発表・交流の場の創出やアーティストの発掘・育成に取り組み、文化資産を未来へ継承するとともに、持続可能な美術館運営と地域活性化を実現します。

（2）実施内容

利用者サービス向上に向けた取組

コロナ禍以降のDX化を踏まえ、デジタルによる利便性向上と、リアルの場でのホスピタリティあふれるサービスを両立し、来館者満足度の向上を図ります。併せてアンケート等により利用者ニーズを把握し、特に家族で利用しやすい環境整備を推進します。文化芸術に触れる機会の創出を通じて子どもの感性や創造力を育み、家族交流の促進と将来の美術館利用者の育成につなげます。

●具体的な取組
- 利用者ニーズの把握と業務への反映
- 多言語対応や接遇等、来館者サービス向上
- 空きスペース・遊休施設の活用

2　利用者サービス向上についての方針及び実施計画

（2）実施内容

利用促進、利用者増加（集客対策）に向けた取組

年間来館者20万人の達成に向け、若年層や子育て世代、県外旅行者など新たな利用者層の開拓を進め、来館者の裾野を拡大します。あわせて、再来館を促す仕組みづくりによりリピーター化を図るとともに、地域団体等との連携を通じて美術館のファンをサポーターへと発展させます。新規来館者の獲得、リピーターの育成、地域との協働による持続的な利用者基盤の構築により、年間目標の達成を目指します。

●具体的な取組

- 若年層や子育て世代の鑑賞支援や教育機関との連携
- 旅行者を呼び込むための施策
- まちなか交流事業を発展させ地域連携・協働によるファン層拡大
- 美術館メンバーズクラブの活動
- 広報施策の強化（ツール拡充・SNS充実）

他の美術館、文化施設等との連携に向けた取組

他の美術館や文化施設との連携による相乗効果を生み出し、県内の文化発展に貢献します。

●具体的な取組

- シンフォニア岩国との連携
- 県内外の文化・文教施設や教育機関との連携

自主企画事業

自主企画事業を美術館の重要な広報活動と位置づけ、展覧会の魅力発信や来館促進につなげます。また、学芸員と協働した関連イベントや地域と連携した企画を充実させ、美術館を核とした文化・観光の賑わい創出を図ります。事業を通じて県民に親しまれる美術館づくりを推進するとともに、地域活性化や利用者拡大など、美術館が抱える課題の解決に取り組みます。

●具体的な取組

- ミュージアムコンサート
- 公演鑑賞、美術館観覧バスツアー
- 特別展広報イベント
- アウトリーチ活動
- まちなか交流事業

（3）実施体制

適正な管理業務実施に向けた考え方

これまでの16年間の運営実績を活かすため、現在の体制を踏襲し、山口県（学芸・総務）との綿密な連携のもと、他の運営施設での知見も活用しながら、運営を行います。

●以下の項目については重視して管理を行います。

- 個人情報は、個人情報保護法に則して適切に取り扱います。
- 緊急時の対応は、人命を優先し、所蔵作品や展示作品の保全を行います。
- 苦情等への対応は、ご意見を真摯に受け止め、ご理解を頂けるよう対応策を導き出します。

2　利用者サービス向上についての方針及び実施計画

（3）実施体制

経験者の活用について

施設運営の鍵となる責任者クラスには、文化施設でのマネジメント経験が豊富な職員を配置します。また、各部門の担当者は、現職の地元職員を継続して配置し、美術館の所在地域に精通した地元職員の知識と経験を活用します。現指定管理者である強みを活かしてさらなる人材育成に取り組み、継続的な業務品質の向上につなげます。

地元人材・地元企業の活用

警備や清掃等、外部委託においては、地元企業の活用・連携に努めるとともに、地元人材の雇用を積極的に行います。当施設での業務実績と経験を持つ地元企業を委託先として積極的に選定し、保有する知見と機動性の活用を図ります。

職員に対する研修

- 企画運営部門では、すべての来館者に寄り添ったサービスを実現する接遇マナー、展示作品について学ぶ勉強会等の基本研修は全職員を対象に実施します。
- 維持管理部門では、実機を用いた訓練や実習を通じて、労働安全衛生法等の関係法令に基づき、専門的な技能の習得・向上に努めます。また、公共施設管理者としての安全管理やコンプライアンスの遵守といった多角的な視点による研修・教育を実施します。